

# 宇佐町・片野新町地区浸水対策事業

## 1. 浸水被害状況

当地区は、平成21年、22年、25年、29年、30年の豪雨により浸水被害が発生しており、特に、平成30年7月の豪雨では、市内で過去最大規模の降雨（70mm/h）を記録し、床上浸水110戸、床下浸水156戸の被害が発生した。

## 2. 浸水対策

災害に強く、安らぐまちの実現を図るため、①雨水貯留管や②雨水増補管の整備を行う。

### ◆事業スケジュール

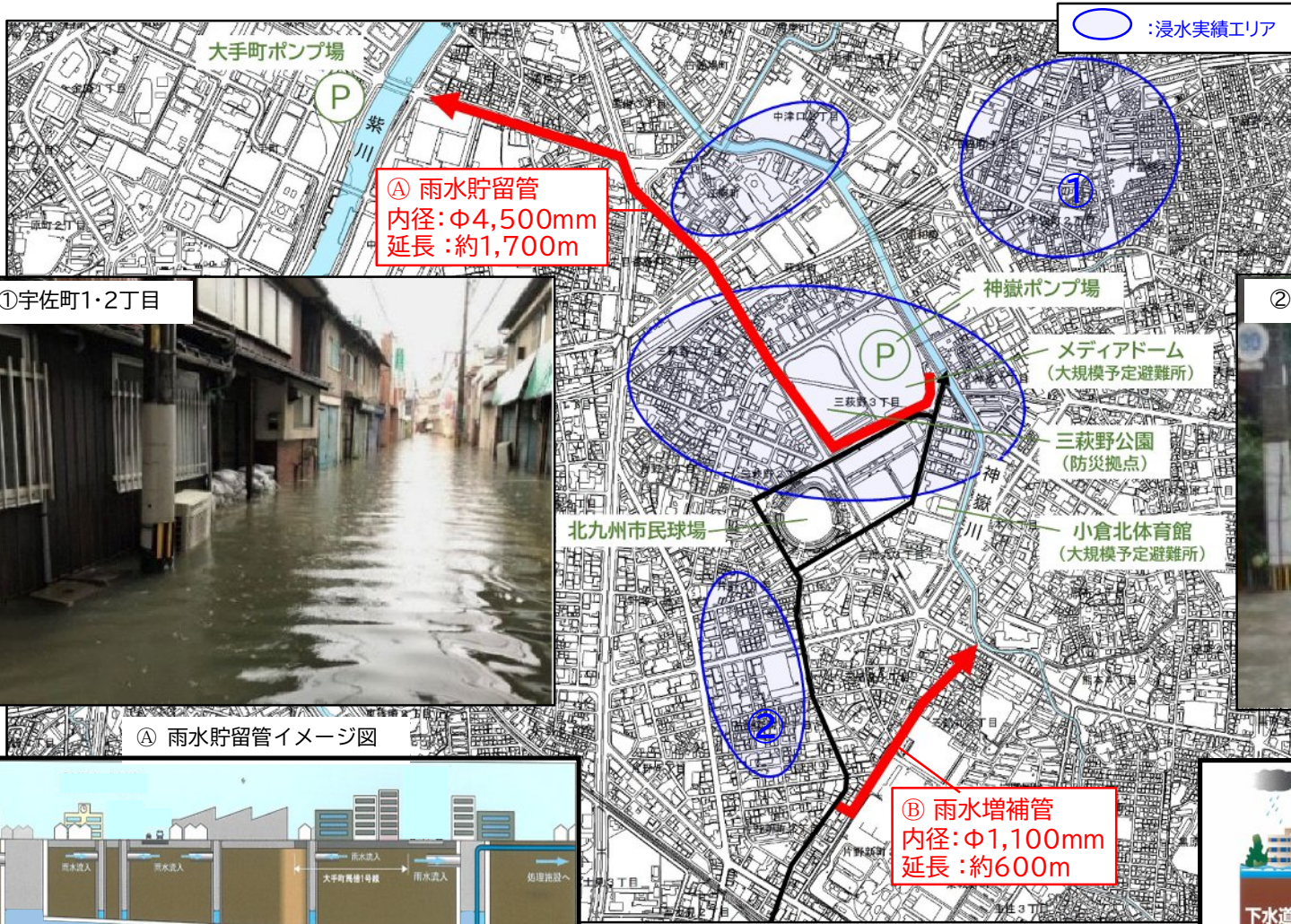
令和5年度	基本計画、事前評価1
令和6年度	基本設計、事前評価2
令和7年度	実施設計
令和8年度	工事着手

### ◆事業費、事業期間

事業費	9.3億円
事業期間	令和5年度～令和12年度

### ◆費用便益費

B/C	1.79 (1.0以上で費用効果高)
-----	-----------------------



① 雨水貯留管  
内径:  $\Phi 4,500\text{mm}$   
延長: 約1,700m

② 雨水増補管  
内径:  $\Phi 1,100\text{mm}$   
延長: 約600m

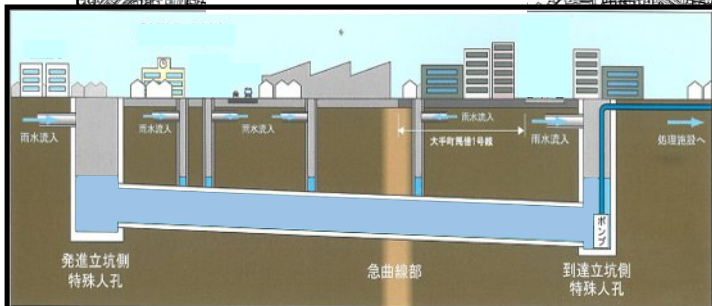


①宇佐町1・2丁目



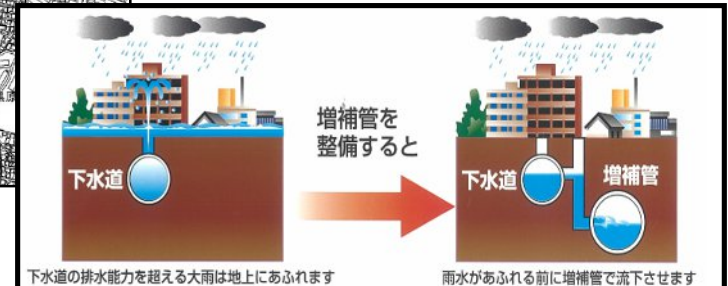
②片野新町1丁目

① 雨水貯留管イメージ図



大雨が降ったときに、既設の下水道管では流しきれない雨水を一時的に貯留するもの。

② 雨水増補管イメージ図



下水道の排水能力を超える大雨は地上にあふれます  
増補管を整備すると  
雨水があふれる前に増補管で流下させます

大雨が降ったときに、既存の下水道管では流しきれない雨水を直接河川へ排水するもの。

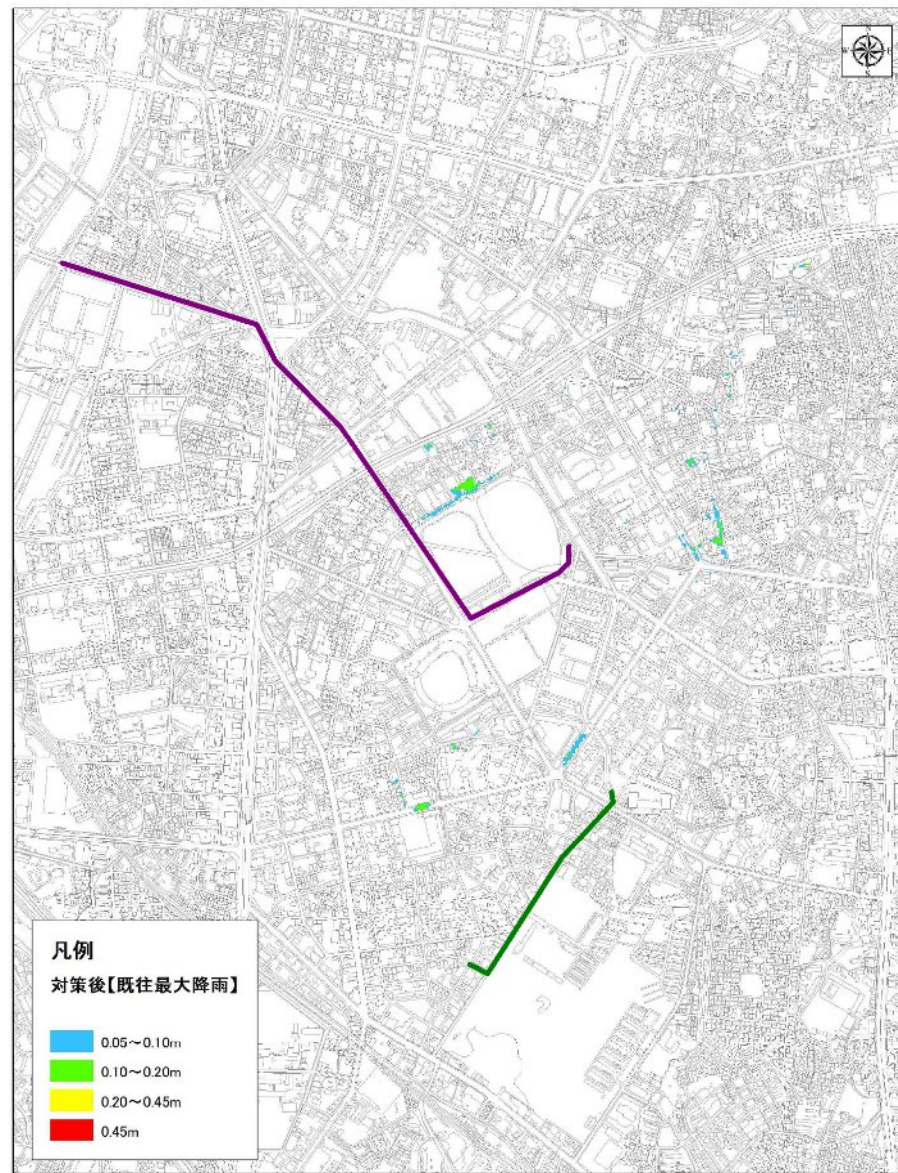
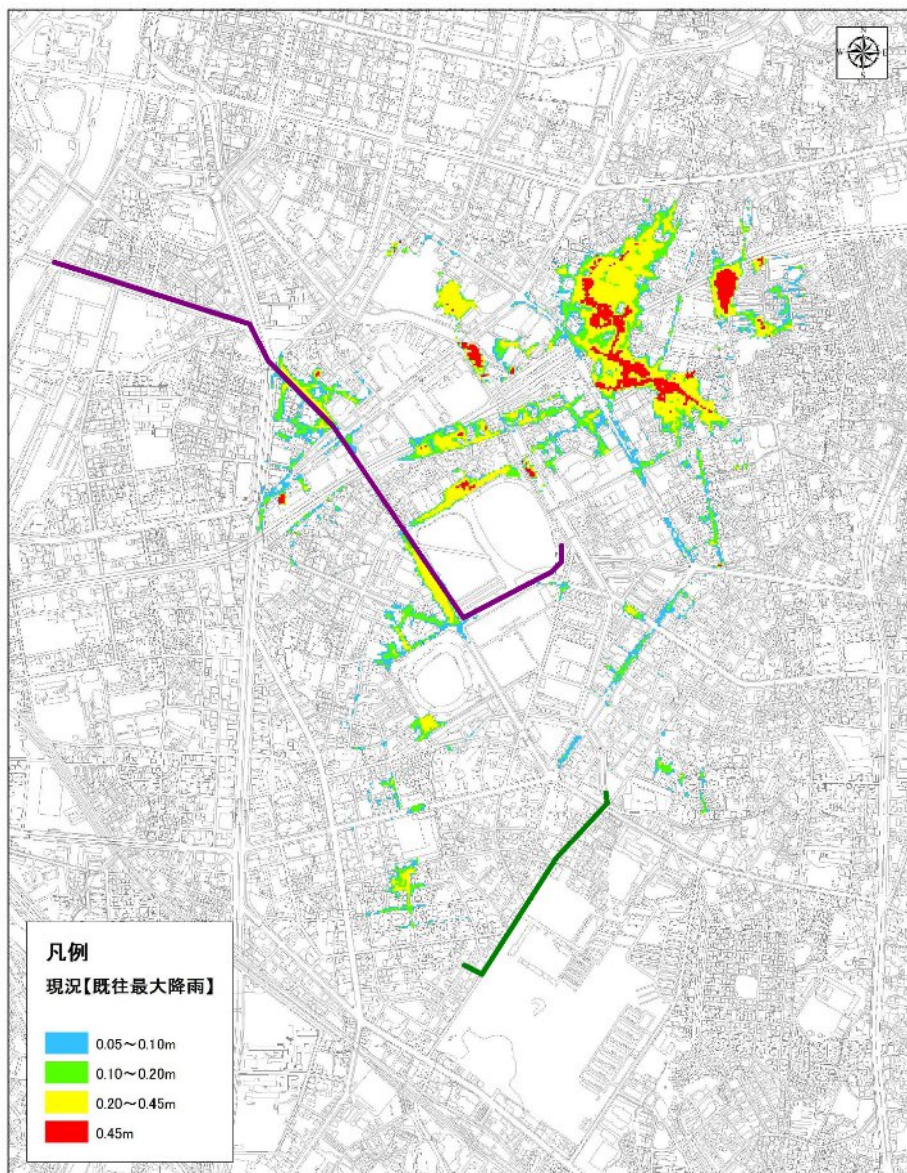
浸水被害（H30.7.6）及び浸水対策等箇所図



# 浸水シミュレーション

現況(既往最大規模降雨(70mm/h))

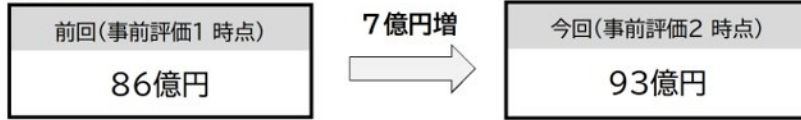
対策後(既往最大規模降雨(70mm/h))





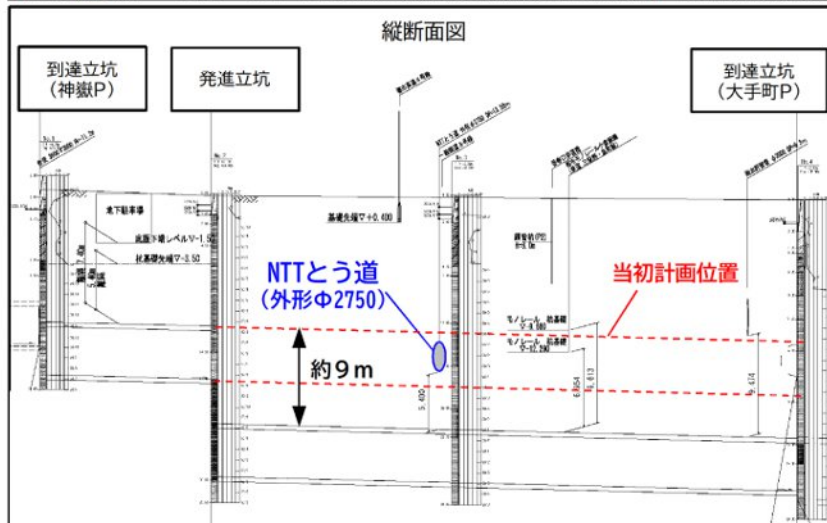
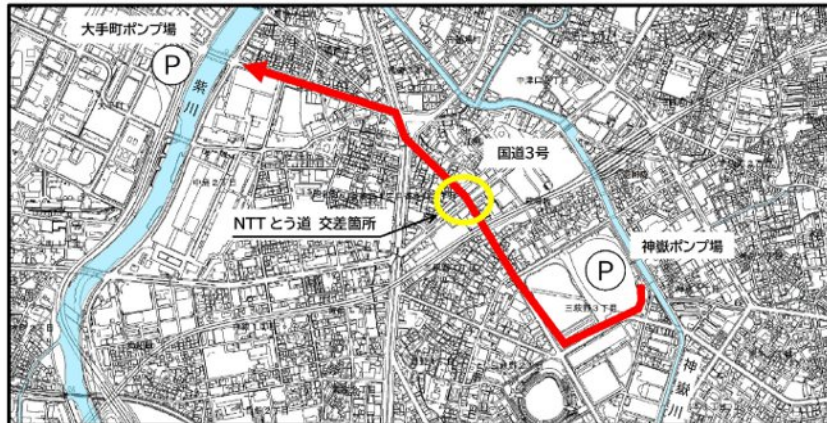
# 事前評価1での意見を踏まえ(宇佐町・片野新町地区浸水対策事業)

## 1. 事業費の精査



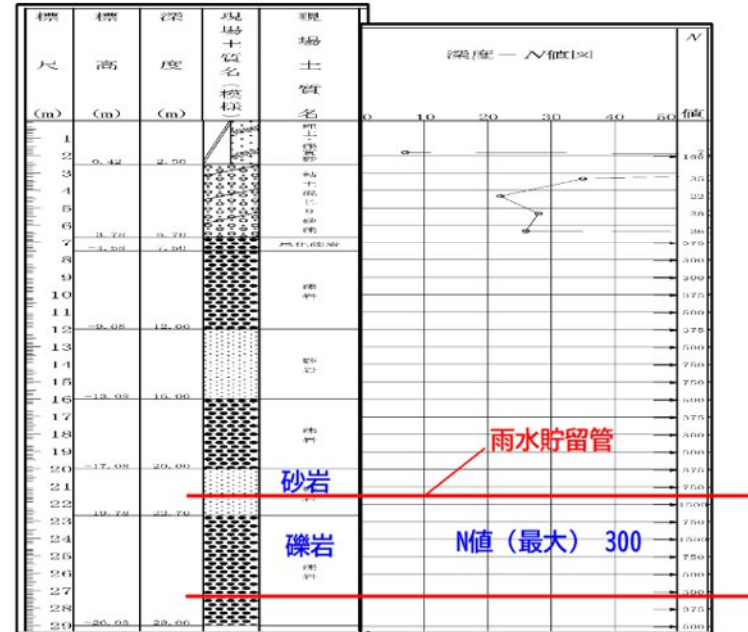
### (1) 地下埋設物の影響 2.0億円増

地下埋設物 (NTTとう道) が計画ルート上にあることが判明。  
NTTとの協議の結果、雨水貯留管の深さが9m程度深くなった。  
(立坑部の土工、仮設等の数量増)



### (2) 地質確認 2.5億円増

ボーリング調査を行った結果、施工予定箇所の土質が、当初想定していた標準的な岩層ではなく、非常に硬い礫岩等であった。(シールド工事日進量 9m/日⇒8m/日)



### (3) 資材価格や労務単価の高騰 2.5億円増

令和5年度 ⇒ 令和6年度 物価等上昇率 約3%

(4) 雨水貯留管の設置位置が約9m深くなったことに伴う、維持管理費 (動力費) への大きな影響はない。

## 2. 費用便益比(B/C)

$$B/C = 1.79 \quad (15,572 \text{百万円} / 8,698 \text{百万円})$$

便益：浸水被害軽減額 (浸水被害額 (整備前) - 浸水被害額 (整備後))

費用：建設費、更新費、維持管理費

※整備期間、評価期間における現在価値換算での累計

感度分析結果

CASE-1 事業費が、さらに 10%増加する場合  $B/C = 1.63$

CASE-2 供用開始が 1年遅れ R13 となった場合  $B/C = 1.76$